

桑村小学校応援団会議！

桑村小学校 令和6年5月10日 No, 1 文責 山地

第1回学校応援団会議を開催しました

5月8日(水)に、「第1回学校応援団会議」を行いました。

応援団員(学校運営協議会委員)の皆様には、5時間目の授業の様子を参観していただき、桑っ子たちの学びの姿を見ていただきました。

授業参観後、音楽室で「第1回学校応援団会議」を開催しました。



【会議の様子①】



【会議の様子②】



【会議の様子③】

校長からは、令和6年度桑村小学校経営方針について、次のように説明がありました。

学校経営方針については、2年間この学校にいて子供たちの様子が分かっている渡邊校長が昨年作ってくれたものを尊重しながらプラスαしていくこと。昨年度より大切にしている「感性」を育むことを大切にしながら夢の実現に向けて成長できる子を目指していくこと。信頼される学校づくりを大切にしたいと思っていること。応援団会議等意見を頂いたときには、改善に活かしていきたいこと。読書活動については、継続していくこと。体験活動については、自分のやりたいことをどう作り上げていくかが大切だと考えていることです。

【応援団員の意見】

- ◆子供がのびのびしていてよいと思う。これからものびのびできるよう続けていただきたい。
- ◆桑村小学校は自分の母校である。地域の中心となるところなので、地域としても学校を盛り上げていきたいと考えている。
- ◆自分も仏の里のところに校舎があったころ桑村小に通っていた。自分の子供は、今の校舎の卒業生である。PDCAとあるが、頭文字だけだと何のことなのか分かりにくいのではないかと。括弧書きで内容を書くようにしてほしい。
- ◆学校と地域をつなげるために何ができるか考えている。経営方針として、たくさんの中身があったが、着実にやってほしい。読書をよくする子供たちで、去年は読書推せん文コンクールで学校賞をもらったことも新聞で見た。読書はなくならないようにし、発展していけばと思う。

◆中学や高校に行くと、いろいろな影響を受ける。人とのふれ合い、人との関係性は小学校時代に形成される。小学校段階では、人間性の形成や人格の形成が大切だと思う。集団生活の中で、人とのふれ合い方について学んでほしい。

この後、賛成多数により、令和6年度学校経営方針が承認されました。また、「学校応援団会議」の運営構想や学校評価についてもご意見をいただきました。その後の応援団員の情報交換では、PTA活動や地域活動について意見が交わされました。

【応援団員の情報交換から】

◆PTAの組織改革を行い、役員の人数を減らすことにした。今までは地区ごとに役員を選出していたが、地区ではなく学年から1人ずつ役員を選出する形となった。今年度は過渡期なので、9人の役員でやっていくが、来年度からは6人となる。

◆地域からPTA役員が選ばれなくなり、子供会が残っているのも桑原区と大竹区だけになってしまった。学校と地域のつながりがうすくなってしまうことが懸念される。

◆子供会がなくなったことの影響について、まだ実感はない。学校から連絡をもらえれば、協力できることについては考えていきたい。

◆桑原区でも、しゃぎりをやっているが、人数が少なくなってきたしまっている。他の区の子供でもやりたい子がいれば、受け入れを考えている。桑原区でも、行事はお年寄り中心に考えないといけない状態である。学校の運動会のおときにお年寄りがちょっと参加できるようなゲームをしたらどうか。

◆「地域deわくわく体験スクール」は、これまでPTAだけでやってきたが、簡素化する方向で考えている。函南西小でもやったが、花火大会を計画している。その後、校内できもだめしもやりたい。運営協議会にも協力してほしい。ボランティアをつのっていく。

◆桑原区では、災害があったときに、学校を避難所として考えている。山が多く危険が多い。安全なのは学校である。以前実際に体育館に避難したこともあった。

応援団員の皆様、たくさんのご意見をありがとうございました。今後の学校運営に活かしていきたいと思えます。